

## アジアを知りたい : 九州大学発アジアへのアプローチ

<https://doi.org/10.15017/13306>

---

出版情報 : 2006-03-20. 九州大学アジア総合政策センター  
バージョン :  
権利関係 :

# 九州大学



九州大学総長  
梶山 千里

ASEP

to Asia

九州大学国際  
交流推進機構

## ASEP

本学は、Asian Student Exchange Program (ASEP)という学生交流プログラムを展開しています。これは、交換留学の促進、また単位互換をスムーズに行う制度の確立をめざして開始されたものですが、相互に留学生を交換し、その生活費を留学生を受け入れた大学側が負担することでアジア域内の経済格差を乗り越えて、より活発な学生交流の実現を目指すものです。韓国のソウル大学校や釜山大学校、中国の復旦大学、南京大学、香港大学、またタイのマヒドン大学やタマサート大学との間で、すでにASEPによる学生交換が行われています。

## 九州大学国際交流推進機構

2002年4月にアジア総合研究センター（現アジア総合政策センター）、韓国研究センター、留学生センター及び国際交流推進室で構成される国際交流推進機構を発足させました。ここではアジア重視の観点から、アジア総合政策センターと韓国研究センターが機能し、留学生センターが留学生に対するアジア理解を促進するための教育・研修プログラムを実施しています。

現代のアジアは、経済成長と技術革新に伴って国土の開発とグローバル化が進み、伝統的な価値観や生活様式が急速に変化しつつあります。そうした動きの中で、アジアでは新しい世代とアイデンティティー、世界観といったものが育まれてくると言ってもいいでしょう。グローバル化の波は、多様なアジア世界を一つにまとめる求心力というよりは、むしろ政治体制においても、経済政策においても、より一層の多様化を促進する遠心力として働いているようにさえ見えます。このように刻々と変貌を遂げつつある現代アジアを正確に見つめ、アジアに関する刺激的な知の情報を発信できる拠点となるべく、九州大学はアジアの諸大学と更に交流、連携を強め、かつ深めていきたいと考えています。

# アジアに開かれた大学

本学は開学当初から「アジアに開かれた大学」を標榜し、多くの優秀なアジアからの留学生を受け入れてきた歴史があります。本学を巣立っていった留学生たちは帰国後、母国の発展のために活躍し、教育・研究の分野ばかりでなく、経済・産業界や政治・行政など幅広い分野で重要な役割を果たしています。また本学はアジアからの留学生を数多く受け入れるばかりではなく、アジアの研究者との学術交流も活発に展開してまいりました。

そのような本学の伝統に鑑み、アジアの人材がアジアを活躍の場としてさまざまな分野でその活動を展開できる環境を整え、また学問研究でも欧米に比肩し得る実績を上げることを意図して、「アジア重視戦略」を国際戦略の大きな柱に据えています。

## アジア学長会議

アジアの有力大学との連携構想を実現するため、「アジア学長会議」の開催を提唱し、2000年12月にアジアの各国・地域を代表する主要な大学の学長クラスが福岡で一堂に会し、21世紀におけるアジアの大学の役割について熱く議論を交わしました。この会合は翌2001年にも本学において開催され、以来、韓国（2002年）、タイ（2003年）、そして再び本学（2004年）と主催地・幹事校を交代しながら開催されてきており、この間、参加大学はアジアの有力大学20校以上にまで増加して名実ともにアジアの大学間の連携を強める働きをしています。

アジア  
学長会議

Approach

## Asia in Today's World (ATW) Program

これは2001年に日本の国立大学（当時）において初めて実施されたサマープログラムであるUMAPリーダーズプログラムを前進とする、アジア理解に重点を置いた外国人留学生向けサマーコースです。2003年からはATWとして開始されました。世界各地の大学から優秀な学生に参加してもらい、ホームステイを含む福岡での生活体験をしながら、日本を含めたアジアの歴史や文化、政治や経済について、より広い視点から協働学習を行う6週間のプログラムとなっています。毎年、アジアや欧米を代表するアジア研究者を講師陣に招くこともあって、ここ数年は100名に近い受講申し込みが殺到する人気プログラムとなっています。

Asia in Today's  
World (ATW)  
Program

※UMAP=University Mobility in Asia and the Pacific